

実践的指導力のある教員をより多く輩出するために
——元的・体系的な教員採用試験支援策の実践について——

谷川 尚己¹⁾ 井田 仁美²⁾ 橋本 源之助³⁾

To Produce More a Teacher with the Practical Leadership
About Unitary and Systematic Practice of the lecture examination measures

Naomi TANIGAWA, Hitomi IDA, Gennosuke HASHIMOTO

Abstract

For a student and a graduate to be a teacher, we performed a lecture examination measures for these three past years. As a result, passers increased year by year and we were able to produce 33 passers this years more than 3 times compared to three years ago.

The reason is due to carrying out a commentary of the main points of the issues of employment examination that is group discussion, an interview, practice of the trial lesson classes systematically. OB, OG strongly has thought to want to cooperate for the pass of the younger student. We think that it is important that we continue measures to raise a teacher with the practical leadership with a sense of unity while valuing the thought.

キーワード：教員採用試験対策，教採対策支援アドバイザー，OB・OGの思い

1, 緒言

本学に入学する学生は、およそ70%が教員を目指しているか、教員免許を取得し、将来教員になりたいといった思いを持っている。しかしながら、教員採用試験を突破し、教員になることは年々厳しくなっているのが現状である。平成24年度の滋賀県における平均倍率は3.83倍であり、特に、中学校では5.29倍、高等学校では4.44倍にものぼっている。この大きな課題に対し、在校生からは「何から手を付けてよいかわからない」「勉強の方法がわからない」といった声が上がっている。また、既卒者からは、「講師をしながらでは忙

しく、どのように勉強の時間を取ればよいのだろう」「面接対応について教えてほしい」等の思いが寄せられている。

そこで、それらの声や思いにこたえるため年間計画を立て、採用試験対策を3年間推進してきた。その結果、今年度は3年前の3倍を超える33名の合格者を輩出することができた。対策講座に参加することなく合格している既卒者もいるが、これらの講座に参加し、力を付けた現役学生・既卒者も多くいる。この3年間の取り組みを報告するとともに、全学的な取り組みにできればさらに教員への壁を突破する学生・既卒者は益々増加するものと思われる。そこで今回、取り組んできた対

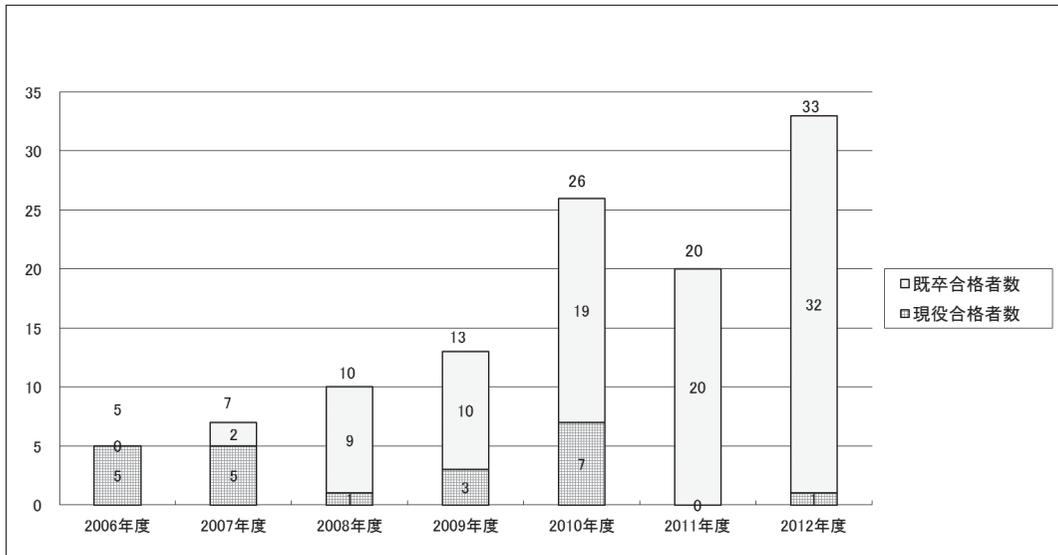


図1 教員採用試験合格者の推移

表1 年度別校種別の直近の3年間の教員採用試験合格者数

	試験	現役				既卒				合計	特記事項
		小	中	高	特	小	中	高	特		
平成22年	1次	6(11件)	3(5件)	4	4	未確認	未確認	未確認	未確認	17(24件)	
	2次	4(5件)	1	0	2	3	10	1	5	26(27件)	
平成23年	1次	3(4件)	1	1	0	6	10	7	5	39(40件)	既卒 校種不明 6
	2次	0	0	0	0	4	9	4	3	20	
平成24年	1次	2	1	0	0	10(12件)	27(28件)	7	8	55(58件)	
	2次	0	1	0	0	6(8件)	13	5	8	33(35件)	
合計	1次	11(17件)	5(7件)	5	4	16(18件)	37(38件)	14	13	111(122件)	既卒 校種不明 6
	2次	4(5件)	2	0	2	13(15件)	32	10	16	79(82件)	

策講座について検討を加え、2, 3の知見を得たので報告するとともに、広く意見を求めるものである。

2、本学の教員採用試験の結果

本学在校生の教員採用試験受験者数は毎年4割にあたる120名余りである。図1は、在校生・既卒者の合格者数の推移を表したものである。卒業生輩出からの4年間は漸増であったが、GP推進事業、特に、アドバイザー(橋本源之助)を中心としたここ3年間の体系的な取り組みを推進することによって、そ

の合格者は急激に増加している。2009年度から2010年度にかけては倍増の20名を超え、特に、本年度は30名を上回るまでになった。その合格者は、既卒者が大半で現役には大きな壁が存在している。既卒者は、講師の経験が面接にも生かせることなどもあり、このような現象が現れているものと考えられる。

表1は、年度別校種別の直近の3年間の教員採用試験合格者数(一次および二次試験)を表したものである。近年、一次試験合格者が増加しつつあり、二次試験をいかに突破し、いかに合格者を増加させるかが重要にな

表2 2012年度の教員採用試験支援対策の推進計画

月	講座名等	対象	回数	備考
5 6	A 「教採対策演習充実講座」 (小論文)	4年次生・ 既卒者	3回	直前対策
6	● 「教職キャリアデザイン論講座」 ・ 仕事と自己実現 ・ 先生になることは ・ 先生の仕事は ・ 学校とは ・ 教職とわ たし ・ 今、何を 等	1・2年次生 (教採志望者公 募)	6回	早期対策
6 7	B 「教採対策直前演習講座」 ・ 受験にあたって・個人面接・集団討論(面 接)・模擬授業 ・ こんな教師を(大阪・兵庫・京都・滋賀)	4年次生・既卒者	8回 [4講座]	直前対策
7	C 「教採キックオフガイダンス」	3年次生・ 既卒者	1回	
8	D 「教採二次試験対策講座」 (模擬授業・個人面接・体育実技)	二次試験受験 4年次生・既卒者	2日	二次試験 直前対策
10	E 「教員採用試験合宿研修」 先輩合格者の話・学習方法 等	3年次生・既卒者	1泊2日	
10～ 12	F 「教員採用試験対策講座」 東京アカデミー	3年次生・既卒者	10回	
11	G 「教職OB・OG懇談会」	3・4年次生・既卒 者	1回	
3	H 「春季特別セミナー」 (一般教養・教職教養・専門教養・論作 文・個人面接・集団討論・模擬授業 等)	3年次生・既卒者	13回 (予定)	
3	I 「学級びらき講座」	採用内定者 講師任用予定者	1回 (予定)	直前対策

ってくると思われる。特に、中学校での合格者数が安定して多く、本学の存在を示す指標と考える。

3、本学の教員採用試験支援対策の推進

表2は、2012年度の教員採用試験支援対策の推進計画である。以下、それぞれの講座の取り組みのねらいと結果等について報告する。

(1) 教職キャリアデザイン論講座

ねらい：入学後より早い段階から教採への準備はもとより、教員になりたいという目標を持った学生生活を送ることの重要性を自覚させる。

結果：1・2年次生を対象に昨年度より開講し、「教師の条件・教師像とは」「教職の魅力と厳しさ」「学校教育における課題とは」など6月に6回の講座を開催した。50名を超える参加者数であった。より早い段階から教職へのキャリアデザインを描き、教採受験への準備態勢として意義があると判断できる。今後は、本講座をシラバスに位置付けること等の検討も必要ではないだろうか。



写真1 橋本アドバイザーの講話に聞き入る参加者たち

(2) 教採対策直前演習講座

ねらい：1か月後に迫った教採試験に向けての重要ポイントについて演習形式で行う。

結果：本講座は、試験頻出項目、論文・面

接でのキーワード対策など具体的なものである。既卒者が参加しやすいように、土、日開催。さらには、交通の利便性を考慮し、「コラボしが21」を会場（JR大津駅近辺）に開催した。参加者は、昨年度が29名（既卒者15名）、今年度は14名（既卒者10名）で、既卒者の参加が多くみられた。参加者は、目前に迫った教採試験に向け、緊張感を持ち、熱心に取り組んでいた。

(3) 府県別教採講座

ねらい：関西2府2県の教育長から、「こんな教師を」をテーマに講話をしていただいた。各府県の「教育の重点施策」「教育の指針」などをもとに、「実践的指導力があるとはどのような教員なのか」「こんな行動力のある教員」を望むといった内容であったため、参加者は、受験府県の教員を目指す意欲や対策の方向性をつかむことができた。

結果：3年目の取り組みであるが、昨年度からは4府県の講師を招き、受験府県のキーポイントを具体的に講話していただくことができた。また、参加者は疑問点や今後の課題等熱心に質問し、それぞれ受験対策の焦点化が図れたようであった。



写真2 教育長の熱い想いに聞き入る参加者

(4) 教採キックオフガイダンス

ねらい：教採試験終了直後に、3年次生を対象に開催し、夏季休業を有意義に過ごすことができる。

結果：本取り組みは、教員採用一次試験終了直後に、3年次生を対象に22年度から開催しているが、その参加者は71名。23年度は50名であった。しかしながら、今年度は10名と極端に減少していた。学生の意欲の問題だけでなく、本事業の重要性をいかに告知するか等について分析する必要があると思われる。

(5) 教採二次対策講座

ねらい：一次試験合格者に二次試験対策として2日に分けて開催し、集団討論や実技試験に向けた対応力を身に付けさせる。

内容：教室を実際と同じ会場に設定し、集団討論の模擬体験を行った。3グループに分け、全員が体験した。また、模擬授業は、テーマ（保健の授業の一部：「薬物乱用防止」「生活習慣病の防止」など）をくじ引きにより決定し（実際の採用試験と同様である）、3名が教師役を体験し、その他の参加者は、その様子を「自分ならどうする」という思いで観察していた。



写真3 集団討論の模擬体験の様子

実技試験に向けては、器械運動（特にマット運動の連続技）やハードル走の技術の習得

に向け柴田准教授と松山助教の指導を受け、練習を重ねた。



写真4 ハードル走の練習に取り組む受講生

(6) 秋季教採対策合宿研修

ねらい：次年度の教採試験に向けて、教員採用の情報の収集や傾向の把握と対策の重要性を認識し、仲間とともに受験への意欲を高め、これからの受験勉強の一層の充実を図る。1泊2日で開催し、教員採用試験合格に向けて、重要な取り組みとして位置付けている講座である。セミナーハウスを会場に昨年開催しているものである。

内容：①前長浜市教育長から「求められる教員の資質」についての講義

②教採試験の傾向と対策 現状と対策（専門教養，教職教養，一般教養）について

講師 橋本アドバイザー，柴田准教授

③本学卒の教採試験合格者との懇談「効果的な受験対策とは」として合格者との懇談を開催した。小・中・高等学校・特別支援学校それぞれの合格者4名が出席して、各校種別に行った。卒業生たちは、夜8時から、仕事を終えた後出席してくれ、2時間たっぷりとその取り組みなどについて懇談を行った。



写真5 中学校と小学校の合格者との懇談の様子

④講話「教えることと学ぶこと」 武井 助教

⑤教採試験模擬試験 本年度の滋賀県の採用試験問題に取り組み、その後解答および解説が行われた。

結果：12名の参加であったが、来年度に向け非常に充実した内容であった。参加者は、今の思いを忘れることなく今後に活かしてほしいものである。今回の収穫は、卒業生たちが、「後輩の目標達成のためなら、積極的に協力するので活用してほしい」と言ってくれたことである。今回の合宿に参加できなかった既卒者もたくさんいることを聞き、再度このような懇談をする機会を作ってくれば出席すると言ってくれた。卒業生のこの一言から次に報告する「教職OB・OG懇談会」を急遽計画し、開催することにした。

(7) 教職OB・OG懇談会

夜の6時から、小・中・高等学校・特別支

援の講師をしながらの合格者やすでに教員採用試験に合格し、学校現場で活躍している先生が4名出席し、各校種別に懇談会を開催した。4名はそれぞれの校種での児童・生徒の対応やその楽しさ・難しさ。また、採用試験に向けての体験談を話してくれた。参加者はそれぞれに質問をするなどし、有意義な時間を過ごし、採用試験合格に向けての意欲を高めることができたようである。既卒者・現役合わせて35名が参加した。



写真6 小学校・高等学校合格者との懇談会の様子

【参加者の感想】

- ・やる前から諦めていて、やる気もなく何をしていてもいいかわからなかったけれど、今日先輩から話を聞き、よかったです。まずは行動をとってみます。来年からスクールサポーターを経験しようと思います。なぜ教員になりたいかをもう一度再確認でき、自分を見つめ直すきっかけとなりました。やるだけやってみようと思います。頑張ろうという力がわいてきました。
- ・実際に現場に出ている人の話を聞いたのがよかった。今、自分が何をしなければな

らないのか、そのことをすることが教師に近づける一歩だと思う。まずは自分を知ることから始めたい。今日の話聞き教師という職業は大変だが今まで以上に興味がわき、教師になるんだという気持ちが強くなった。

【OB・OGからの教採合格に向けての実践や激励】

郷原祐史さん（1期生）滋賀県中学校合格

平成25年滋賀県教員採用試験に合格したことにあたり、大学の先生方就職課の方々に厚くお礼申し上げます。私は卒業後、会社を半年で退職し、学校で講師として働き始めました。5年目の今年教員採用試験に合格することができました。

合格のポイントを考えると、その中の一つに大学での教員対策講座に参加したことがあります。この2年間、対策講座に参加し得られたものは「知識・経験・やる気」の3つだと考えています。

「知識」面では、橋本先生の話の中で、滋賀県の教育のポイントや重要事項等を再確認することができ、面接や小論文に生かすことができました。「経験」の面では大学の先生方による面接練習や模擬授業、実技試験対策などで、実践的な練習を行いフィードバックしていただいたことを更に深めていき、レベルアップできました。最後に「やる気」ですが、私が得たものの中で最も大きなものだと感じています。大学の先生方からこの大学から合格者を出したいという思いは、教採対策の案内をいただくところから感じており、大変嬉しく心強いものがありました。また、同じ大学の学生、OBなどが集まり、同じ目標に向かって一生懸命になる姿を見ていて、自分ももっと頑張ろう、負けたくないという気持ちになり、モチベーションを高めることができました。

このように、私が教採試験に合格できたの

は、自身の努力や講師としての経験だけでなく、大学の先生方の支えやご協力があったからこそその結果だと感じています。そこで、これから教員としての活動に全力を注ぐとともに、一人でも多くのびわこ成蹊スポーツ大学出身の教員が増えていくために、ほんの少しかもしれませんがご協力させていただき恩返しをしていきたいと考えています。これから受験する学生の皆さんはとて恵まれたサポート体制の中で教員採用試験対策ができると思います。後は、自分がどれだけ努力するかだと思います。一緒に学校現場で働くことができる日を楽しみにしています。応援しています。

今後、参加者の決意や自主的に懇談会に参加してくれたOB・OGの思いを大切にしながら教採対策を継続、充実していくことが重要だと考える。

（8）春季特別セミナー

2月下旬から3月上旬にかけて、一般教養の各教科別、教職教養の内容別、専門教養等10回に分けてそれぞれの専門の先生方を講師に招き講座を開く。学生のやる気を喚起し、一層の実力の向上を図ることをねらいとして毎年開催している。

（9）その他の取り組み

の実践

教員志望相談支援室（ライブラリー2F）での対応

実数…1日5件程度（1人当たり40分～60分）

相談内容：受験勉強法・対策、小論文の書き方、スクールサポーター希望、受験科目の内容への不安

対応：時間を決めての対策についての相談活動

講師をする既卒者…夜間、FAXによる回答

※3年間の積み重ねによるまとめ

教採試験直前になっての受験勉強法についての相談が多くなる。もう少し早くからスタートをきることが大切である。しかし、1・2回生の関心も出てきている。また、既卒者からの相談件数も増えてきており、その対応は重要である。

「忠恕」の発行…各府県の採用状況や採用試験対策等について、2か月に1回学生に発信する新聞である。



写真7 相談活動の様子

4. まとめ

教採対策事業を始めて、合格者は2009年度から2010年度にかけては倍増の20名を超え、本年は33名にまでなった。これら成果の要因は下記の通りと考える。

1. 推進計画の通り体系的な教員採用試験支援対策を継続して実践してきた。

2. 学生の早い時期からの教採試験対策の取り組み及び既卒者への参加の呼びかけ。

3. 教採対策支援アドバイザー等によるきめ細かな指導及び継続的なサポート。

しかしながら、課題も多くみられる。課題は次の通りである。

教員採用試験における現役の合格は厳しい現状がある。これらを解決するには、早い時期から目標に向け取り組むことができる体制を整えなければならない。特に、現役合格者対策として、一般・教職教養や専門教養の理解力を高めていくことが必要だと思われる。そのためには、教員採用試験支援対策への参加率を上げるなど、各自が採用試験に向けての学習時間を確保し、継続した取り組みを実践する習慣をつけることが重要である。合格者は、講師を経験した既卒者が圧倒的に多い。今後は既卒者へのサポート体制を整備することも重要となってくる。そのためには、ゼミ・クラブ単位での現役・既卒者への教員採用試験支援対策の告知や参加の呼びかけ。さらには、卒業後の連絡体制の確立など、本学全教職員の協力体制の確立が必要である。

最後に、後輩達の教員採用試験対策を自主的に応援しようとするOB・OGの思いを継続伝承し、充実していくことが重要だと考える。